

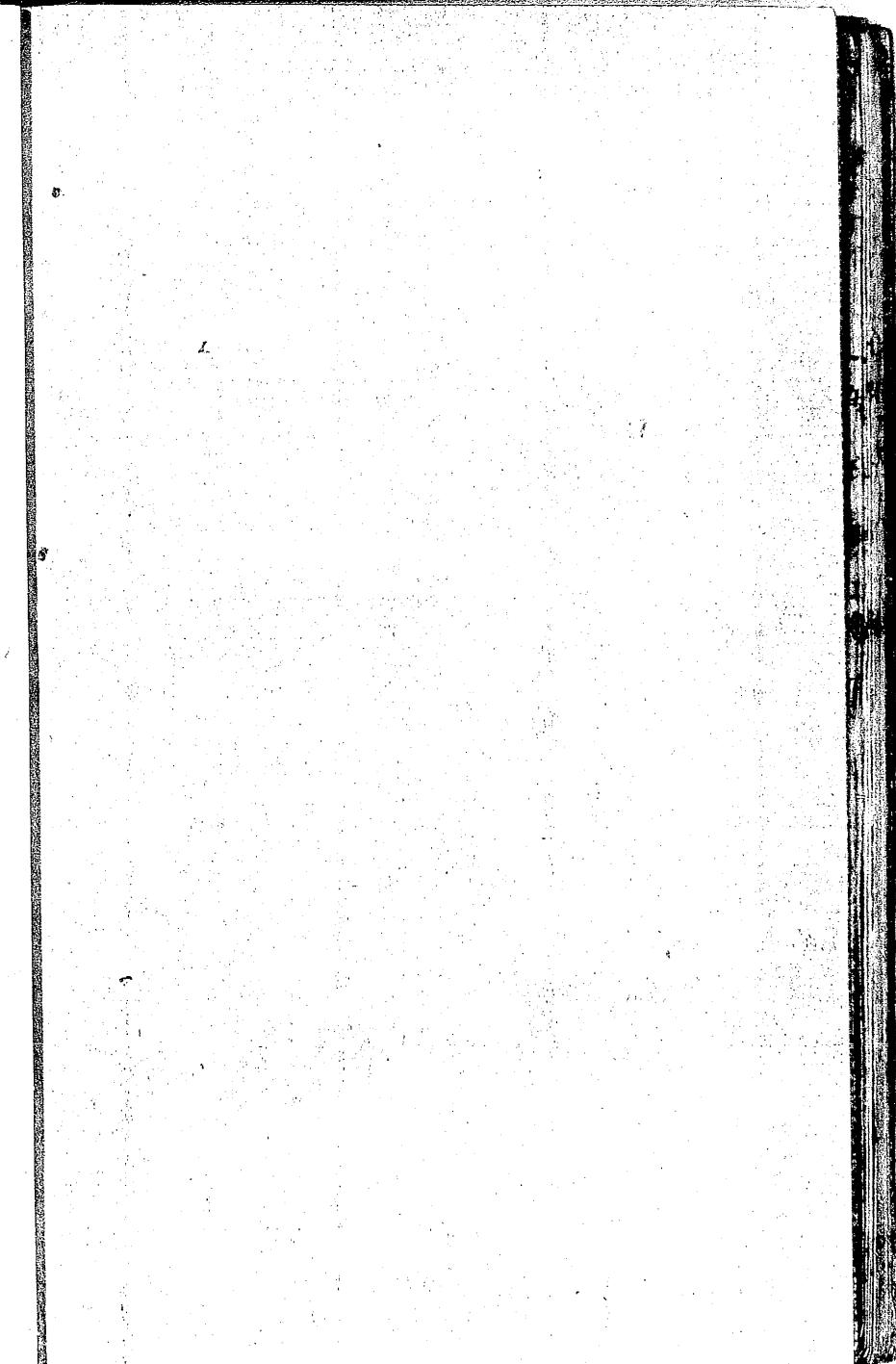
繪智雙の環
一編下
圖の卷

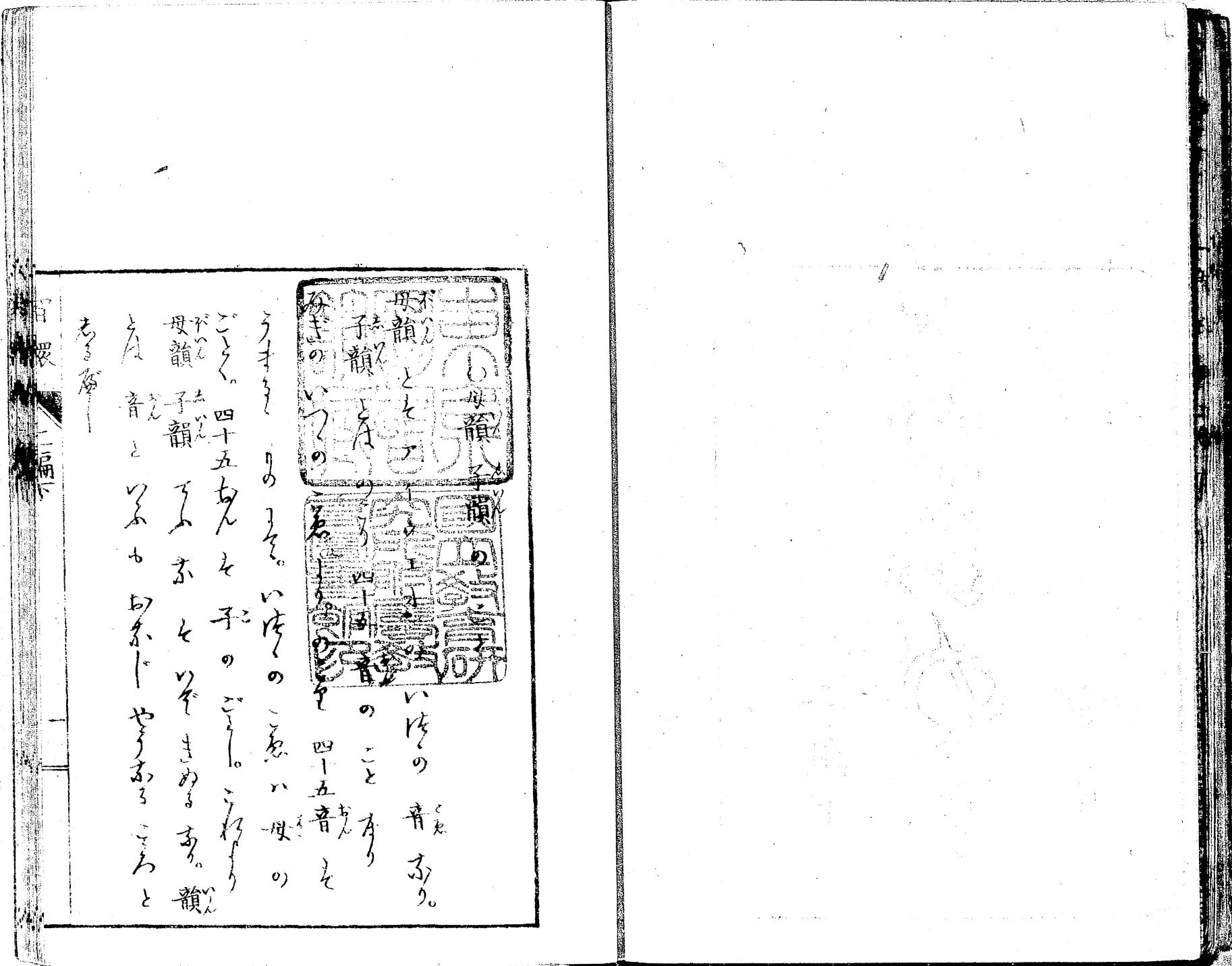
卷之二

詞の卷



二編下





考

下

いづの 音 あり。
こと 有り
四十五音を
うそり りの こと。いづの こと は 母の
ごく。四十五音を 手の こと。いづの
母韻 子韻 す ふと ひを ます。す。韻
音と ひを ます。す。す。す。

ある。そのことを見音といひ。あるいは
のことを複音といふ。それは單とひど
い。複音は子のとひどい。あるいは、
はひどい。たゞ、見音を单音、これを複音

此の者も多し。而して
此の力キクケコをあくまでも
おこし。力はアヨ力。キはイヨ力。
クをウ小力。ケは上小角。ハオ
小力。シ。モリナリの事。タの今
乃ミ急。ホドモ急。急をアレウエガ
シ有。在ぞ四十五人急。急の事。
急の事。不急。急の事。急の事。
急の事。急の事。急の事。急の事。
急の事。急の事。急の事。急の事。

赤穂の義理

○
文
獻
卷
之
一

在二月 小才子が本ひかとひより
本ひか。本ひかはひと。本ひか ひより
の。本ひか。本ひか。本ひか。本ひか。
金時。東京。富士山。利根川。本ひか。
本ひか。本ひか。本ひか。本ひか。
本ひか。本ひか。本ひか。本ひか。
女。在。二月。

○あこがれの力

高麗人有大稱性。筆後。高麗人。

人稱の文と

おのづかひをもつて、おをとひ。坐すわふとひのうの
事ことの本もとをとどめ。傳つたはるのことをばかし
者ものに、その本もとをとどめ、そなへりの
事ことを人ひと稱たとめとゆふ。人ひと稱たとめの事ことの

と かく お ま じ き な い が す ま し い だ う

第二人稱。

第三人稱 ト まぐく
第一人稱 わ みづき の あらわ

卷之三

源義兼
松風齋
著
讀書記

卷之三

その本を第一人称の「私」と「私自身」で書く。この「私」を第一人称と呼ぶ。

卷之三

• 有之也 有之

臣淮

卷之三

何の誰と
も

第一人稱の「おまえ」は、
第二人稱の「おまえ」は、

第二人稱 乃 有 あ
て み ま す か あ
を こ そ ば あ
何 の 事

何處の誰も

本也。第二人稱の有無は、有
三人稱をもつてゐる。

卷之三

卷之三

清少納言の如き

清少納言

卷之三

おどて まつたの まめと ひびく あひて。
まめの 本家。ひびく まつた おとを
歌ふ 本家を かくも。まめ 著者人称

性の心

性
卷之三

おもてのひはやまく小男のうなづき
ほんと小學生。全く小男のうなづき
つま。今度もおもてのうなづき
おもて。おもてのうなづき
がうなづき。またうなづき
き。おもてのうなづき
のうなづき。
おもてのうなづき。おもてのうなづき
おもてのうなづき。おもてのうなづき
おもてのうなづき。おもてのうなづき

男性の態度

男夫之父祖伯父兄光是息姓

男
帝
孫
男
子
漢
侯

卷之三

九

女性の
文學

北牛

牡牛

三

北犬

唯

4

一
九

10

卷之三

女と陰とし。男を陽とす。○日を太陰とひよる。月を太陽とす。○月を左陰とす。日を右陽とす。

男性 女性 中性 の みつ て くわく

有し

單複の語

左ノ處 小・軍稱 複稱 と 重 て 重。是
を 重 て 重。單複 と そ う す

單 複 六 重 複 と そ う す

左ノの 事 と いふ 事 と は 重 て 重。是
を 重 て 重。是 が 事 と いふ 事 と は 重 て 重。是
を 重 て 重。是 が 事 と いふ 事 と は 重 て 重。是

左ノ處 在人を 重りと 以て 単稱 小
して 重りと 以て 複稱 と 有り
ガタ
ら と 重りと 有り 在人を つくる 事 と
複稱 と 有り 在人を 有り 事 と
ども 有り 在人を 有り 事 と
あく ひづ 在人を 有り 事 と
複稱 有り 在人を 有り 事 と

のもの。然るに。其の事は。或は。或は。複数とを

以て定め

この「も」單複の「も」の事。唐三藏曰。
「も」あり。一人。諸人。一歳。千歳。萬歳。
「も」小字。然稱。皆も。かくの「も」がある。
ひづれ。身。そと。以て。身。そと。を。身。そと。を。
人。獸。民。群。也。も。す。この。た。食。も。
く。小。多。度。も。生。生。し。結稱。も。と
亦。聲。も。と。身。も。身。も。あ。

格の二

格と。は。ま。り。と。身。そ。と。も。あ。身。は
小。い。身。の。ま。ま。り。身。ま。ま。身。身。身。
第三格。第四格。身。身。獨。左。格。の。い。つ。あ。
身。身。の。ま。ま。り。身。ま。ま。身。身。身。
身。身。を。つ。け。く。以。へ。や。身。身。身。身。
身。身。の。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
身。身。を。つ。け。く。以。へ。や。身。身。身。身。
身。身。の。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。

たまひを

とまきを

とやうこを

せつきと 莽四格 有り

第一格 小がをつて名を 連用の 五音づく
不吉不。ふくわ玉を 大火の トキ
音けさるを わたるを あくの 医
すくみやくと 小を かと 音と あ
このを まちめ事 けふの ちまく 有
れ 二音

この木、第一格 まちめど やりと そを
度くも と お不し

第二格 の はと まよじ まほじ がと つぐ
と ねじ。ことと 莽一格 の がと と ねじ
まよじ。たとど まよじ がと ねじ

ひめ が いた を と まよじ

莽三格 乃 小と 繁多 まよじ へを ま

ゆくを

みまへ

ひだりへ

の まよじ

ひひとひと 莽三格 乃 小と 繁多 まよじ
こと まよじ。ひとの が まよじ まよじ
まよじ

まよじ 莽三格 の 小と まよじ まよじ まよじ

まよじ

ひだり

ひだり

ひだり

音義

音義

音義

四格の本成るを以て。たゞ其
を書く所以が爲めに。と以て
よし。がござし

蒙四格乃を小字
ひやをこそのみへもぞ也
二ををつくること原
ひのくの書き方と書道のつまある
事也。蒙四格なりと見ゆし
書もかかどむ。書の法とも書也。格

歌仙人麻呂の下

第一回 葵四格と李子。二回 太陽。三回 人麻呂。
四回 歌仙と李子。五回 人麻呂と李子。
六回 歌仙と李子。七回 人麻呂と李子。
八回 歌仙と李子。九回 人麻呂と李子。
十回 歌仙と李子。十一回 人麻呂と李子。
十二回 歌仙と李子。十三回 人麻呂と李子。
十四回 歌仙と李子。十五回 人麻呂と李子。
十六回 歌仙と李子。十七回 人麻呂と李子。
十八回 歌仙と李子。十九回 人麻呂と李子。
二十回 歌仙と李子。二十一回 人麻呂と李子。
二十二回 歌仙と李子。二十三回 人麻呂と李子。
二十四回 歌仙と李子。二十五回 人麻呂と李子。
二十六回 歌仙と李子。二十七回 人麻呂と李子。
二十八回 歌仙と李子。二十九回 人麻呂と李子。
三十回 歌仙と李子。三十一回 人麻呂と李子。
三十二回 歌仙と李子。三十三回 人麻呂と李子。
三十四回 歌仙と李子。三五回 人麻呂と李子。
三十六回 歌仙と李子。三十七回 人麻呂と李子。
三十八回 歌仙と李子。三十九回 人麻呂と李子。
四十回 歌仙と李子。四十五回 人麻呂と李子。
四十六回 歌仙と李子。四十七回 人麻呂と李子。
四十八回 歌仙と李子。四十九回 人麻呂と李子。
五十回 歌仙と李子。五十一回 人麻呂と李子。
五十二回 歌仙と李子。五十三回 人麻呂と李子。
五十四回 歌仙と李子。五五回 人麻呂と李子。
五十六回 歌仙と李子。五十七回 人麻呂と李子。
五十八回 歌仙と李子。五十九回 人麻呂と李子。
六十回 歌仙と李子。六十五回 人麻呂と李子。
六十二回 歌仙と李子。六十三回 人麻呂と李子。
六十四回 歌仙と李子。六五回 人麻呂と李子。
六十六回 歌仙と李子。六十七回 人麻呂と李子。
六十八回 歌仙と李子。六十九回 人麻呂と李子。
七十回 歌仙と李子。七十五回 人麻呂と李子。
七十二回 歌仙と李子。七十三回 人麻呂と李子。
七十四回 歌仙と李子。七五回 人麻呂と李子。
七十六回 歌仙と李子。七十七回 人麻呂と李子。
七十八回 歌仙と李子。七十九回 人麻呂と李子。
八十回 歌仙と李子。八十一回 人麻呂と李子。
八十二回 歌仙と李子。八十三回 人麻呂と李子。
八十四回 歌仙と李子。八五回 人麻呂と李子。
八十六回 歌仙と李子。八十七回 人麻呂と李子。
八十八回 歌仙と李子。八十九回 人麻呂と李子。
九十回 歌仙と李子。九十一回 人麻呂と李子。
九十二回 歌仙と李子。九十三回 人麻呂と李子。
九十四回 歌仙と李子。九五回 人麻呂と李子。
九十六回 歌仙と李子。九十七回 人麻呂と李子。
九十八回 歌仙と李子。九十九回 人麻呂と李子。
一百回 歌仙と李子。一百一回 人麻呂と李子。

と日と日本じ格又しと第一格有
陽と月とやうと以て太陽と第四格有

獨立格とを號したるの格と以て二編有
二の格の二編ハ勿の二編と云ふは以テウ

あくから字をもれたり考字のあ
本ノバ

太郎。其人とアラムヒと名前よ

至し、之は左郎とわの二編とカ
あり左上大角の二編と云ふ是が事

多々左の格耶

たと申すに太郎也

太郎也。

其事とせ乃字を讀みて是を讀

一を獨立格と名く文字重と名す

第一格のをかどりのせりと云ふ是がヨ第三格

第四格のをかどりのせりと云ふ是がヨ第四格

ひとびの二編と云ふこれと云ふ是がヨ第五格

やう小よかと云ふ是がヨ第六格

其を考と云ふ是がヨ第七格

人ありと云ふと云ふ是がヨ第八格

孝行の事

凡世間小厚人貴とぞ賤とぞ
父母のうゑる人やあらゆる事ぞ父母
そ我身の出来し本生を本
産育意の事も、年々深く養育
乃歎小生をて、海に水をす
ゆき一念意を。今孝心一本

あるも父母の恩を乞ふ事無し。
十月の間懷胎より生じて母
我今一命。生身以て幼稚の不と
父母よ小晝夜艱難辛苦を経た。
常々小病有風寒一苦して抱き度
少少痛ありて煩り少甚。神
祈り醫を求め我身も苦の爲
不思ひ。夫子乃息災小生。

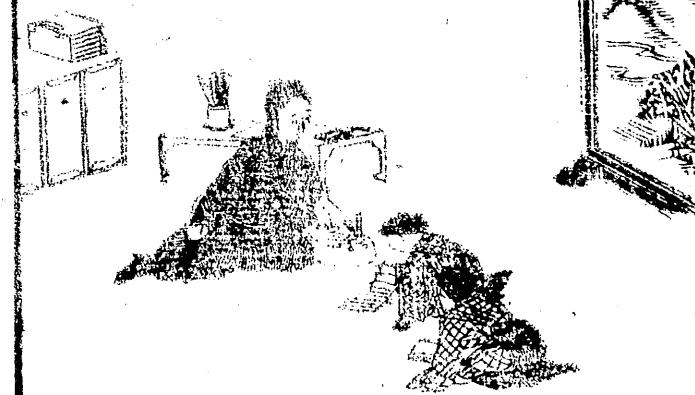
成長者を待て
外へ何の顛ひ
其子稍長すと
模倣。藝を手にせ

七。至る處不師を

人子不似也。

其家未嘗

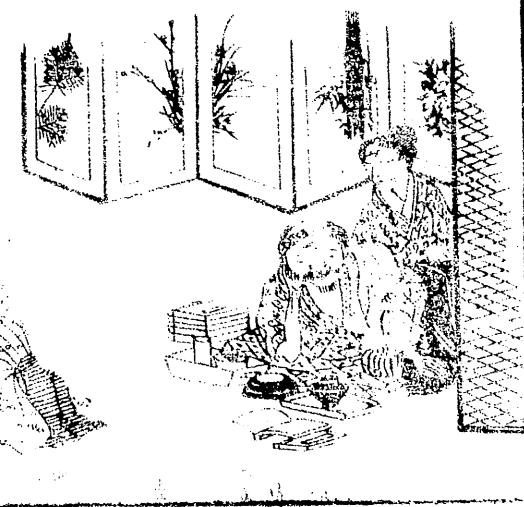
家事不爲。總



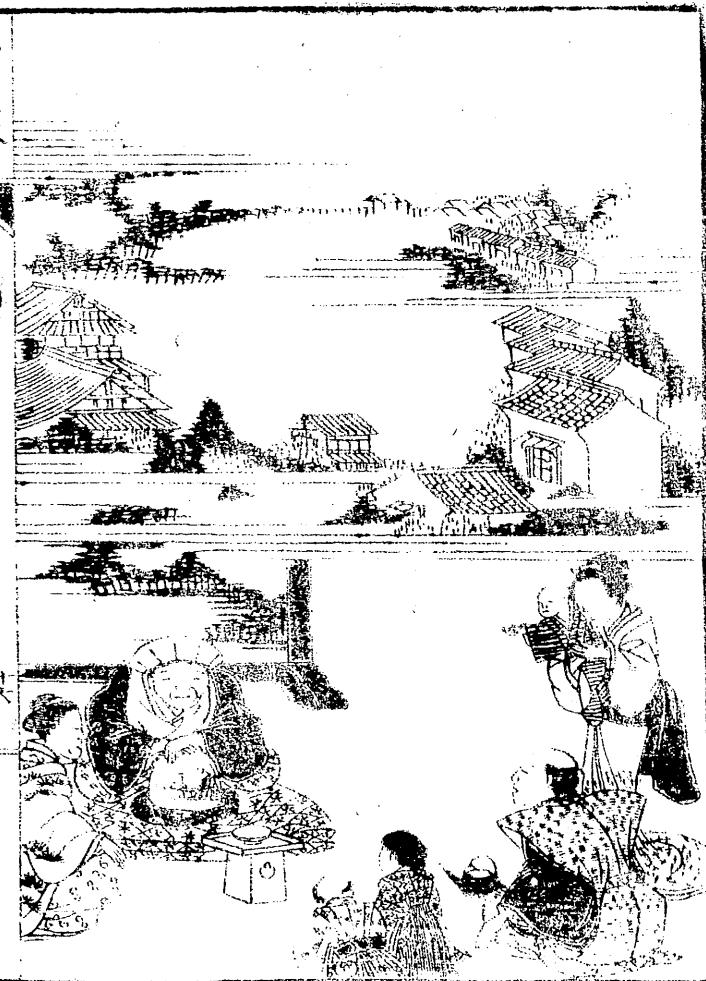
を失業。嫁の夫は、凶暴。未だ
立派な人。又世小競り合ふ。成る程。
難。一月に及ぶ。才士少く。或そ不黙
の。主。自ら。立派。立派。主。目。主。立派。
立派。一生の。立派。何事。立派。乃
立派。立派。立派。立派。立派。立派。
立派。立派。立派。立派。立派。立派。立派。
立派。立派。立派。立派。立派。立派。立派。

孝子傳 卷五
其孝行之異也。
貧富 賞賤也不同。不矜
養育 爭產也不同。其孝行之異也。
積善 父母の私食を結構。是中
之子 善一體也。是亦相應。父母
之飽煥。有子乎此矣。父母年高
丁憂。大子側。子年少。生人
者。在坐。坐坐。之位。在右。一。獲興。

小兒衣。八孝。朝。八
省。歸。父母。小
病。如。老。晝夜。帶
至。上。處。他事。至
奉。看。病。醫藥
之。三。小。姑。心。大
盡。下。內。多。苦。大
不。心。渴。廬。生。一。事。七。



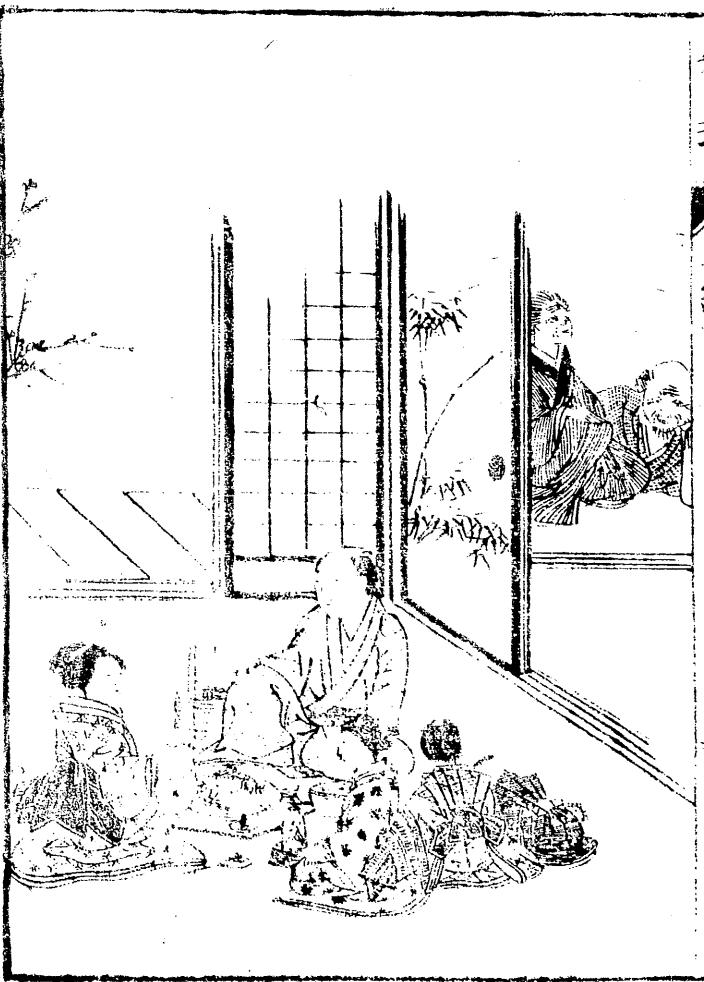
の爲 父母乃身を奉養をも其の爲
を 安せんして。大體ある不孝と以ふ
べし。何事も父母の教訓不 座月見
世法をむかじ。よく身を守り家
を立ちて。其子の如く
あるをも。父母は心中、之を
ある安堵。以て是より多寡衣食の在り
を父母の志を養ふと以て無事



常小村よ下。孝をばきを父母存生の日。有事之度。全の時。存及で孝養を。父死後。母死後。悔も。かく爲生也。在山海の跡物を。家へ。多内榮る。當時の蔬菜。は。來多々。以。多金。会。世の人。父母の養を。大切。而。小村。養。妻。妻子。有。妻子。

失子又。聞下。在。一。失工。物。失。伏。渴。食。多。身。父。母。子。有。多。是。在。於。多。身。妻。夫。人。起。多。喪。食。母。也。孝。行。之。多。人。也。大。失。妻。食。多。子。食。多。身。小。方。也。眼前。妻子。多。愛。口。多。在。之。多。朝。夕。的。勤。工。也。多。食。多。身。多。在。家。妻子。

小少人也。以今者、大體以「門丸」
哉。是不無。其言葉用々入。心小
度也。已小父母。志。心。不
有。物。多。也。而。廣。之。也。
高。之。也。我。身。十五。歲。
吾。妻。也。生。也。取。子。少
少。生。少。不。少。一。時。也。我。我
養。育。也。人。也。生。人。也。我。也





介推也。人之仰人。義也。然子不
父母。久矣。妻子生於林木。一而也。
有子。鶩鳥。鳥皮反哺。少
親。人之大義也。望。不孝
人。心。無所。禽獸。少。在少。全
大。也。又。全。也。也。也。

賣印所

岡田屋

嘉和七

官許

明治四辛未年二月

古川氏藏版

此書は、内傳の宝直清と以て、其の
名前を、六諭行義大意の、うち、上うの
書が、表す。其の、内傳の、上うの
文章、を、取不^{タク}せ、おき。の、其の、
詞の、卷、上、この、文章、上、何、成
りゆつた。、内傳の、道を、走しめ。かづき
有り。、内傳の、道を、走しめ。かづき
有り。、内傳の、道を、走しめ。かづき
有り。